

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000031		
法人名	株式会社グループホームつなぎ		
事業所名	グループホームつなぎ(もみじ棟)		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木2120番59		
自己評価作成日	平成30年2月5日	評価結果市町村受理日	平成30年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから隣接する町のグラウンドでの様々なイベントの風景も感じられ山や海の囲まれたのどかな環境にあります。さつき棟・もみじ棟の2ユニットを併設しており理念である「家庭的な雰囲気」「個々のペース」「健康で安全」「地域との交流」「笑顔の絶えない」を基に日々利用者の意向を尊重しながら共に暮らしています。事業所としても日々改善に取り組み職員個々も資格取得等で全体的に質の向上を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、ホームの体制の再構築に向け、リーダーやサブリーダー職を設置し、リーダー会議を意思決定の場とし、全職員が運営に関わる事としている。入居者も100歳を筆頭として高齢化にあるが、ユニット間での協力体制を強化させ、入居者のしたい思いへの寄り添い等個別のより良い暮らしの継続に向け、本人本位の支援を行っている。自宅での猫のえさやり外出の支援等、個別支援への対応に固定観念にとらわれず、入居者の希望にできる限りの対応は、理念の一つ「個々のペース」の実践でもある。開設時からのホーム長であることも、入居者や家族の絶大な信頼となり、職員との風通しの良い関係が築かれ、事故対策防止に対する勉強会など意欲的な姿勢でケア向上につとめている。地域に密着した生活拡充に向け、今後も運営推進会議を活かしながら地域の中で充実した入居者の最終章を支援いただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットなど目の届く所に提示している。本年度は理念の現状確認を行い理念に基づき実践できている部分、向上が図られている部分とあったが課題もあり全体的にも追求した見直しまでには至っていない。	開設時からの理念を継続し、具体的なケアにつなげたいとリーダー会議の中で検討し、職員一人ひとりの考え方を聞きとりしている。家庭的な雰囲気であるか、個々のペースに寄り添っているか、健康で安全な暮らしとは、家族と地域との交流を大切にすると、笑顔の絶えないとは等の話し合う時間を作り、意識を強化させている。職員の入れ替わりも少なく、羅針盤として職員のケア姿勢に反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にはできる限り出向くよう努めており地域ボランティアの活用、買い物など購入品は地元を活用している。事業所からの地域へ向けた発信は乏しく課題である。	地域住民とのふれあいの為、町のイベントへの参加や、中学校のマラソン大会の応援に出向いたり、地元の商店での買い物、地域のボランティアの訪問による交流等を行っている。管理者は地域への情報発信が課題であるとしており、保育園からの相互交流の申し出もあり、保育園との交流を検討している。	運営推進会議には老人会長の参加もあり、地域住民を巻き込みながら地域との関係性を深めて頂きたい。また、ホーム便りの創刊を検討いただき、ホームの活動を地域に向けて発信されることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の地区・企業・学校などを対象とした認知症サポーター養成講座のメンバーとして職員2名が活動している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に隣接施設と合同開催継続にて運営状況等の報告を行っているが事業所としては全般的に有意義に活用できていないのが課題である	定期的に開催している運営推進会議は、隣接特養と合同で開催。運営状況から研修や行事・活動、事故や身体拘束廃止への取り組み等所定の書式により報告しており、透明性のある運営体制であることが確認できた。合同の開催はホームが課題とする事案の検討が難しいように見受けられ、単独での開催に向け検討していく意向であり、地域連携へのきっかけや、地域の情報リサーチの場とされることが望まれる。	ホームで開催することは、入居者の生活の様子を見てもらう機会となり、認知症ケア啓発の一環につながるものと思われる。また、老人会からの参加もあり、地域や老人会等の行事を収集し、入居者が外に出かける機会とされることが期待される。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政職員も参加して運営状況等の報告を行っており行政主催のケア会議には必要に応じて参加している。必要時は連絡や出向いて対処したり情報はメールを活用している。	運営推進会議に町住民課他、社協や地域包括支援センターからの参加を得て、2ヶ月間の情報を開示している。また町のケア会議での事例検討等に参加したり、事故報告や処遇関係及び介護認定更新申請等に出かけながら情報を発信している。時節の応じた情報（インフルエンザやノロウイルス対策等）等はメールにより把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本年度も関連項目の内部研修実施。基本的な理解や認識はあり取り組まれているが全体的な安全面などを考慮して状況や場面においては、やむを得ない場合もある。	身体拘束廃止に向けた研修により意識を強化させている。入居者の外出傾向や帰宅願望・徘徊等にできるだけ本人の希望に対応している。職員の安全に対する声掛けには常に注意喚起し、家族の承諾を得てセンサーを使用している。	玄関は日中は開錠する等自由な環境である。職員の一人体制時の見守り方法を再検討され、今後も所在確認の徹底により安全な生活を支援いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度も関連項目の内部研修実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体的に認識不足で関連研修などの機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも改定時は書面で説明しており機器等の購入も随時、必要性和承諾の元で進めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は普段の関わりの中で聞き入れており要望確認も行っている。家族等は意見箱や面会簿コメント欄を設置しているが不十分。要望確認や毎月の便りで様子を伝えている。本年度は家族会を予定していたが中止となった。以前よりコミュニケーション意識や情報共有の機会設定に努めてはいる。	家族には意見箱や、面会簿の欄に意見を設ける等家族の意見や要望を引き出すよう努力されており、家族からの申し出は全職員で共有している。また、毎月の状況を便りで発信している。家族とのバーベキュー大会を開催し交流に努めていた、今年度はが雨で中止となったことは残念である。契約時にホーム内外の苦情相談窓口や担当者を説明している。入居者には日々の生活の中で聞き取りしており、外出や買い物等に随時支援している。	家族の訪問時になんでも言ってほしいと声を掛けられているが、要望等は少ないようであり、家族が一堂に会する機会を設けていただきたい。家族が出席しやすいような日程を訪問時に聞き取りしながら、進められるとよいと思われる。また、運営推進会議の参加も呼び掛けることで、家族とともにあるホームを形成されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	前年度よりユニット毎にリーダー及びサブと設置しておりリーダー会議にて運営等や決定事項に関して携わることで活かしている部分もあるが活かされず上手く反映できない部分もある。	今年度は、職員体制を見直し、リーダー・サブリーダー等を配置し、緊急時にはその場で話し合うとともに、各リーダーが職員の提案事項などをまとめ上げリーダー会議で検討することになっている。管理者とリーダーを含めた意思決定の場を作りことでチームワークの強化として生かされている。ホームの体制確立に向け取り組みは、ユニット同士の協力体制の強化にもつなげており、職員の意見を重要視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の状況や希望に合わせた就業環境の配慮や職務によるやりがいや反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回は内部研修実施しており外部研修も可能な限りだが確保している。資格取得のためのシフト調整にも取り組んでおり有資格者も増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会地区ブロック会での定期的な研修会等参加や同業者の集いの場にも可能な限り参加している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には本人との面談や見学も設けており意向も確認してサービス導入に至るよう努めてはいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には家族との面談や意向も確認してサービス導入に至るよう努めてはいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や関係機関からの情報収集・提供に努めて暫定的な状況把握から必要な支援を見極めケース会議等で段階的な支援へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意向・性格・機能などを考慮した上で家事、TV鑑賞、催し物の準備など共に作業している。関わりやコミュニケーションも細かに図り関係構築にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会促しや面会時は居室でゆっくりできるよう茶菓子の提供、受診の協力、お正月等の外出・外泊依頼などで関係構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続、自宅外出、馴染みの理美容店やお店の活用、年末の隣人宅訪問などできる限り努めている。知人の面会もたまにある。	ユニットにより状況の違いはあるが、本人の要望がない場合にはホーム側から促している。かかりつけ医の継続や、自宅への外出、家族・知人の訪問等により馴染みの関係を継続させている。自宅で飼う猫のえさを気にされる入居者には自宅への外出を支援している。	故郷訪問等家族の協力を視野に検討いただき、馴染みの関係が途切れないよう支援いただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格等も考慮して随時、状況に応じた環境に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時も状況に応じて関係機関への情報提供、相談、支援などできる限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向を伝えることができる方は買い物・帰宅・猫のエサなどできる限り調整して対応している。あまり意向等がない方々も会話などで把握に努めたりケース会議で検討している。	職員は高齢化・重度化傾向にある中において、直接希望などを申し出る方もあるが、一人ひとりに寄り添い開かれた質問による思いの把握や、意思疎通困難な状況には表情等で把握している。また、ケース会議により各職員の意見をもとに話し合いが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前には調査票や本人、家族等からの聞き取りで生活歴や趣味などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議や経過記録などの確認にて定期的に把握に努めており本人のペースや心身状態も考慮しながら過ごし方の支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを行い本人、家族の要望も聞きながら職員で話し合い作成しておりケース会議、モニタリングにて現状把握に努めている。	入居者・家族の意向等をもとに、ケース会議により各職員の観察や気づき等を話し合い、3ヶ月毎のモニタリングにより見極めている。家族のリハビリをさせたいとおもいに、生活リハビリや外出・散歩等を組み入れたプランは転倒予防にもつながる等副次的な効果も見据えたプランが作成されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の実践状況や状態、様子を記録して共有を図りケース会議等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズの対応としては臨機応変な支援はできていると思われるが多機能化の必要性の有無も含めて取り組みは少ない状況ではある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員が定期的に面会に来られたり消防機関も訓練時には出向してもらっている。地元の業者、商店、理美容院等の活用もできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向に沿っており、基本的に、これまでのかかりつけ医を継続して夜間や休日、緊急時の医療機関の希望も確認している。受診は家族、ホームで協力して対応している。また状況に応じた診療科も紹介状の依頼や希望に沿った支援をしている。	本人・家族の希望する医療機関の受診をホームが中心になって支援している。専門医での受診が必要な場合に主治医や家族と相談しながら適切な医療を支援している。日々の健康チェックにより早めに受診を支援し、感染症対応の研修も実施している。歯科については、必要に応じ希望の歯科医院での治療が行われている。ホームの口腔ケアについては、義歯管理や朝・夕を中心に、歯磨きを見守りや介助で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年度途中より看護師を確保して介護職と情報交換しながら日頃の健康管理や受診、医療機関への相談などを主として務めている。また異常時はできる限り早急な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要に応じて情報提供を行っており定期的な面会にて状態把握、情報交換にも努めている。状況次第での家族等も交えた話し合いの場も設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に重度化や終末期に関する指針を説明して同意を得ている。現在までの看取りの実績はないが関連した知識や認識また体制上等での対応力など検討課題であり、より確立した方針の整備は必要である。支援困難な場合でも後の支援などできる限りの協力はしている。	入居の際、指針をもとに、継続した医療が必要であればホームでは困難であることを説明し、出来る限りは対応することを説明し書面で同意を交わしている。これまでホームでの看取りの経験はない。	今後の看取り支援については、研修の必要性があると認識しており、緊急対応などまずは必要な研修会の開催に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度も関連項目の内部研修を実施。救命講習受講者も複数いるが全体的に実践の場は少なく不安であり訓練や講習での実践力の習得が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基本的には消防機関出向の元での消防訓練、消防用等設備点検を年2回は実施して災害訓練も行っている。災害に備えた日々の役割分担の明示や点検、備蓄の管理も行っており隣接施設との協定も継続している。設備の向上にも備えた。	消防署の参加・協力による避難訓練や防災関連業者による点検を実施している。訓練後の注意事項として、口元をタオルで覆って避難することや、火元の周知の声が小さかったなどが挙がっており、今後に活かすことを共有している。熊本地震発生後は、自然災害への意識も高まっており、災害に備え役割分担の明示や備蓄（食・衣類・排泄用品など）を確保している。安全管理の一つとして、職員はチェック表により点検を行っている。	運営推進会議の中でも、昨今の自然災害について話が出ている。今後は運営推進会議の中で避難訓練を行うことも有効と思われ、検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人、家族には個人情報使用や写真の掲載の同意を書面で得ており職員にも守秘義務等の誓約を得ている。接遇関連の研修も取り入れているが言葉かけなど馴れ合いの部分もあるのは課題である。	職員の守秘義務については、入職時や研修により周知徹底されており、写真掲載等の個人情報の使用は本人や家族の承諾のもと使用している。入浴等の同性介助は、入居者の希望に対応し、方言は入居者に安心を与えるものの、馴れ合いの言葉使いは課題としている。職員の馴れ合いの言葉等職員同士が注意喚起できる環境を作られる事が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度、意思表示できる方が多く尊重して支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には食事時間や日課の決まりもなく希望や意向に沿って本人のペースに合わせながら支援できていると思うが事業所側の都合で希望に沿えないこともあり、その後はできるだけ早く対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や整髪など本人の意向で決めており理美容院も特に統一はしていない。化粧などを継続している方もいる。整容において配慮が足りない時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の機能等に合わせて作業をして頂いており基本的には職員も同じ料理と一緒に食べている。好み等に合わせた別の食材や食べ易くカットして提供している。	献立は担当職員を中心に、季節や入居者の好みの料理を取り入れ作成されている。誕生日には特に希望メニューを確認し、ちらし寿司やカレーの声がよく上がるようである。食材はメインの鮮魚や精肉は配達であるが、野菜や果物などは地域商店へ出かけている。食事は嚥下力や病状に応じて食事形態や、苦手な食材へは代替えで用意し、入居者も洗い物や下膳などできることや気が向かれた時など、その時々で行ってもらえるようにしている。	洗いの音は、食事を急がせることになりかねない。全員が一緒に席に着き、見守りや会話をする等、楽しい食事支援について検討いただきたい。また、エプロンの使用については、首に負担のない使用方法を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはある程度バランスを考えている。食事・水分量は毎回チェック表にて確認。個々のタイミングも考慮しての提供時間や介助方法の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回は義歯消毒実施。用具や義歯管理も個々により工夫している。必要に応じて歯科受診もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは避けるよう心がけておりリハビリパンツ、パッドの種類で対応、利用者の尊厳やコスト軽減にも努めている。昼間は基本トイレでの排泄、夜間もトイレ誘導、ポータブルトイレでの排泄に努めておりベッド上での交換は少ない。	入居者の尊厳を大切に布やリハビリパンツに、パットを使い分け、日中はトイレでの排泄を誘導している。個々に応じた支援は残存機能の維持や家族の負担軽減につなげ、夜間もトイレへの誘導やポータブルトイレの使用など、個々の応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、状態に応じてヨーグルトを提供。排便の頻度や性状の確認に努めて必要に応じて、かかりつけ医に相談したり指示の元で下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある方には無理強いせず声かけや時間をずらすなどしており二人介助など状態に応じた対応をしている。課題として事業所の都合に合わせている現状と工夫は不足している。	入浴は、受診状況も確認しながら午前・午後、1日を通して支援している。入浴拒否の方には、家族に声掛けの協力を依頼したり、更衣のみで対応するなど無理強いせず、週1回は入ってもらえるようにしている。家庭的な一般浴槽であり、身体状況により2名介助など職員の連携を図りながら、安全な入浴支援に努め、今年度は脱衣所にヒーターを設置し、温かく更衣ができるようになっており、誘導・支援する職員にも好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には本人のペースで過ごして頂いており生活習慣やその時々状況、状態に応じて昼寝や休息を促している。天気が良い日は定期的に布団を干したり換気もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は3重確認できるような仕組みで改善を重ねている。薬処方や変更時は記録、送り、薬情等での周知確認。症状の変化時などは、その都度、主治医へ相談して指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的には本人のペースで過ごして頂きながら作業、家事、散歩、娯楽、畑、嗜好品、行事、見学など支援しているが全体的に良くも悪くものんびりしており変化は少ないように思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望の方にはできる限り対応している。季節の見物や日常では散歩も行っているが機会は少ないように思う。家族と外出されることも時々はある。	桜やコスモス・紫陽花などの花見には、全員に声を掛け、季節の花の開花を楽しんでいる。ユニット間で外出への要望も異なり、職員は状況に応じて散歩や買い物などに出かけている。地域行事として祭りや運動会等には可能な限り出かけ、地元の人々と触れ合う機会を持っている。	管理者は入居者の外出への働きかけも少ない場面もあり、今後も本人の希望される外出について検討し支援したいとしている。保育園との交流にも努めたいとしており、外出の機会に繋がるものと期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口金としてホーム管理している分と希望に応じて本人所持している方もおり買い物で実際使われている方もいる。額や購入品によっては都度家族に確認したり毎月明細を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由であり希望に応じて支援しているが機会は少ない。年賀状などが届くことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期に応じた季節感や飾り絵など生活空間も考慮している。トイレ、脱衣所用の暖房機器も取り入れ温度管理にも努めた。	玄関から左右に配置されたユニットの造りは同じであるが、入居者の身体状況に応じて、リビング・食堂のテーブルやソファを配置している。また、双方のユニットをお隣さんとして、自由に行き来し、交流している。貼り絵や塗り絵の作品を掲示したり、訪玄関に置かれた雛段飾りが季節感を醸しだしている。リビングは採光も良く、新聞を開くことを日課とされる方や、背中になあたる日光に気持ちよく自分の時間を過ごされ方など、日常の光景が見られた。	敷地内の環境(雑草等)については、安全面や入居者の外出支援の点から、家族にも協力を呼びかけながら一緒に取り組まれることが望まれる。家族とともに行うことで、更に信頼関係を深める機会に繋げていただきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファはその時々の利用者の状況に応じて分散配置している。ユニット間にはソファを設置しており自由に行き来もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込むことの説明や基本的に持ち込み物の制限もなく搬送の協力もしている。また個々の状況、状態に応じた環境整備にも努めている。	入居申し込み相談時に居室内も見てもらいながら持ち込みを検討してもらっており、テレビやタンス、テーブル・椅子、仏壇を持ち込まれている方もおられる。運搬面からプラスチックケースの持ち込みも多くなっている現状もあるが、衣替えの時期には、家族にも協力を促し、入居後も一緒に安心できる居室作りに努めている。	職員は掃除や換気をはじめ、天候の良い日は努めて布団干しを行っている。これらの取り組みについて、家族へ伝えることで、安心にも繋がるものと思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全体バリアフリーでありトイレや浴室には認識できるような明示をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットなど目の届く所に提示している。本年度は理念の現状確認を行い理念に基づき実践できている部分、向上が図られている部分とあったが課題もあり全体的にも追求した見直しまでには至っていない。	開設時からの理念を継続し、具体的なケアにつなげたいとリーダー会議の中で検討し、職員一人ひとりの考え方を聞きとりしている。家庭的な雰囲気であるか、個々のペースに寄り添っているか、健康で安全な暮らしとは、家族と地域との交流を大切にすると、笑顔の絶えないとは等の話し合う時間を作り、意識を強化させている。職員の入れ替わりも少なく、羅針盤として職員のケア姿勢に反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にはできる限り出向くよう努めており地域ボランティアの活用、買い物など購入品は地元を活用している。事業所からの地域へ向けた発信は乏しく課題である。	地域住民とのふれあいの為、町のイベントへの参加や、中学校のマラソン大会の応援に出向いたり、地元の商店での買い物、地域のボランティアの訪問による交流等を行っている。管理者は地域への情報発信が課題であるとしており、保育園からの相互交流の申し出もあり、保育園との交流を検討している。	運営推進会議には老人会長の参加もあり、地域住民を巻き込みながら地域との関係性を深めて頂きたい。また、ホーム便りの創刊を検討いただき、リホームの活動を地域に向けて発信されることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の地区・企業・学校などを対象とした認知症サポーター養成講座のメンバーとして職員2名が活動している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に隣接施設と合同開催継続にて運営状況等の報告を行っているが事業所としては全般的に有意義に活用できていないのが課題である	定期的に開催している運営推進会議は、隣接特養と合同で開催。運営状況から研修や行事・活動、事故や身体拘束廃止への取り組み等所定の書式により報告しており、透明性のある運営体制であることが確認できた。合同の開催はホームが課題とする事案の検討が難しいように見受けられ、単独での開催に向け検討していく意向であり、地域連携へのきっかけや、地域の情報リサーチの場とされることが望まれる。	ホームで開催することは、入居者の生活の様子を見てもらう機会となり、認知症ケア啓発の一環につながるものと思われる。また、老人会からの参加もあり、地域や老人会等の行事を収集し、入居者が外に出かける機会とされることが期待される。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政職員も参加して運営状況等の報告を行っており行政主催のケア会議には必要に応じて参加している。必要時は連絡や出向いて対処したり情報はメールを活用している。	運営推進会議に町住民課他、社協や地域包括支援センターからの参加を得て、2ヶ月間の情報を開示している。また町のケア会議での事例検討等に参加したり、事故報告や処遇関係及び介護認定更新申請等に出かけながら情報を発信している。時節の応じた情報（インフルエンザやノロウイルス対策等）等はメールにより把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本年度も関連項目の内部研修実施。基本的な理解や認識はあり取り組まれているが全体的な安全面などを考慮して状況や場面においては、やむを得ない場合もある。	身体拘束廃止に向けた研修により意識を強化させている。入居者の外出傾向や帰宅願望・徘徊等にできるだけ本人の希望に対応している。職員の安全に対する声掛けには常に注意喚起し、家族の承諾を得てセンサーを使用している。	玄関は日中は開錠する等自由な環境である。職員の一人体制時の見守り方法を再検討され、今後も所在確認の徹底により安全な生活を支援いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度も関連項目の内部研修実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体的に認識不足で関連研修などの機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも改定時は書面で説明しており機器等の購入も随時、必要性和承諾の元で進めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は普段の関わりの中で聞き入れており要望確認も行っている。家族等は意見箱や面会簿コメント欄を設置しているが不十分。要望確認や毎月の便りで様子を伝えている。本年度は家族会を予定していたが中止となった。以前よりコミュニケーション意識や情報共有の機会設定に努めてはいる。	家族には意見箱や、面会簿の欄に意見を設ける等家族の意見や要望を引き出すよう努力されており、家族からの申し出は全職員で共有している。また、毎月の状況を便りで発信している。家族とのバーベキュー大会を開催し交流に努めていた、今年度は雨が中止となったことは残念である。契約時にホーム内外の苦情相談窓口や担当者を説明している。入居者には日々の生活の中で聞き取りしており、外出や買い物等に随時支援している。	家族の訪問時になんでも言ってほしいと声を掛けられているが、要望等は少ないようであり、家族が一堂に会する機会を設けていただきたい。家族が出席しやすいような日程を訪問時に聞き取りしながら、進められるとよいと思われる。また、運営推進会議の参加も呼び掛けることで、家族とともにあるホームを形成されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	前年度よりユニット毎にリーダー及びサブと設置しておりリーダー会議にて運営等や決定事項に関して携わることで活かしている部分もあるが活かされず上手く反映できない部分もある。	今年度は、職員体制を見直し、リーダー・サブリーダー等を配置し、緊急時にはその場で話し合うとともに、各リーダーが職員の提案事項などをまとめ上げリーダー会議で検討することになっている。管理者とリーダーを含めた意思決定の場を作りことでチームワークの強化として生かされている。ホームの体制確立に向け取り組みは、ユニット同士の協力体制の強化にもつなげており、職員の意見を重要視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の状況や希望に合わせた就業環境の配慮や職務によるやりがいや反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回は内部研修実施しており外部研修も可能な限りだが確保している。資格取得のためのシフト調整にも取り組んでおり有資格者も増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会地区ブロック会での定期的な研修会等参加や同業者の集いの場にも可能な限り参加している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には本人との面談や見学も設けており意向も確認してサービス導入に至るよう努めてはいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には家族との面談や意向も確認してサービス導入に至るよう努めてはいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や関係機関からの情報収集・提供に努めて暫定的な状況把握から必要な支援を見極めケース会議等で段階的な支援へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意向・性格・機能などを考慮した上で家事、TV鑑賞、催し物の準備など共に作業しているが職員主体となっていることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会促しや面会時は居室でゆっくりできるよう茶菓子の提供、受診の協力、お正月等の外出・外泊依頼などで関係構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続などはできているが全体的に支援や努力不足である。	ユニットにより状況の違いはあるが、本人の要望がない場合にはホーム側から促している。かかりつけ医の継続や、自宅への外出、家族・知人の訪問等により馴染みの関係を継続させている。自宅で飼う猫のえさを気にされる入居者には自宅への外出を支援している。	故郷訪問等家族の協力を視野に検討いただき、馴染みの関係が途切れないよう支援いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格等も考慮して随時、状況に応じた環境に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時も状況に応じて関係機関への情報提供、相談、支援などできる限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あまり意向等がない方も多くケース会議で検討はしているが会話などで把握に努めることは乏しい。	職員は高齢化・重度化傾向にある中において、直接希望などを申し出る方もあるが、一人ひとりに寄り添い開かれた質問による思いの把握や、意思疎通困難な状況には表情等で把握している。また、ケース会議により各職員の意見をもとに話し合いが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前には調査票や本人、家族等からの聞き取りで生活歴や趣味などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議や経過記録などの確認にて定期的に把握に努めており本人のペースや心身状態も考慮しながら過ごし方の支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを行い本人、家族の要望も聞きながら職員で話し合い作成しておりケース会議、モニタリングにて現状把握に努めている。	入居者・家族の意向等をもとに、ケース会議により各職員の観察や気づき等を話し合い、3ヶ月毎のモニタリングにより見極めている。家族のリハビリをさせたいとのおみに、生活リハビリや外出・散歩等を組み入れたプランは転倒予防にもつながる等副次的な効果も見据えたプランが作成されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の実践状況や状態、様子を記録して共有を図りケース会議等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズの対応としては臨機応変な支援はできていると思われるが多機能化の必要性の有無も含めて取り組みは少ない状況ではある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員が定期的に面会に来られたり消防機関も訓練時には出向してもらっている。地域資源の活用はあまりないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向に沿っており、基本的に、これまでのかかりつけ医を継続して夜間や休日、緊急時の医療機関の希望も確認している。受診は家族、ホームで協力して対応している。また状況に応じた診療科も紹介状の依頼や希望に沿った支援をしている。	本人・家族の希望する医療機関の受診をホームが中心になって支援している。専門医での受診が必要な場合に主治医や家族と相談しながら適切な医療を支援している。日々の健康チェックにより早めに受診を支援し、感染症対応の研修も実施している。歯科については、必要に応じ希望の歯科医院での治療が行われている。ホームの口腔ケアについては、義歯管理や朝・夕を中心に、歯磨きを見守りや介助で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年度途中より看護師を確保して介護職と情報交換しながら日頃の健康管理や受診、医療機関への相談などを主として務めている。また異常時はできる限り早急な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要に応じて情報提供を行っており定期的な面会にて状態把握、情報交換にも努めている。状況次第での家族等も交えた話し合いの場も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に重度化や終末期に関する指針を説明して同意を得ている。現在までの看取りの実績はないが関連した知識や認識また体制上等での対応力など検討課題であり、より確立した方針の整備は必要である。支援困難な場合でも後の支援などできる限りの協力はしている。	入居の際、指針をもとに、継続した医療が必要であればホームでは困難であることを説明し、出来る限りは対応することを説明し書面で同意を交わしている。これまでホームでの看取りの経験はない。	今後の看取り支援については、研修の必要性があると認識されており、緊急対応など先ずは必要な研修会の開催に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度も関連項目の内部研修を実施。救命講習受講者も複数いるが全体的に実践の場は少なく不安であり訓練や講習での実践力の習得が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基本的には消防機関出向の元での消防訓練、消防用等設備点検を年2回は実施して災害訓練も行っている。災害に備えた日々の役割分担の明示や点検、備蓄の管理も行っており隣接施設との協定も継続している。設備の向上にも備えた。	消防署の参加・協力による避難訓練や防災関連業者による点検を実施している。訓練後の注意事項として、口元をタオルで覆って避難することや、火元の周知の声が小さかったなどが挙がっており、今後に活かすことを共有している。熊本地震発生後は、自然災害への意識も高まっており、災害に備え役割分担の明示や備蓄（食・衣類・排泄用品など）を確保している。安全管理の一つとして、職員はチェック表により点検を行っている。	運営推進会議の中でも、昨今の自然災害について話が出ている。今後は運営推進会議の中で避難訓練を行うことも有効と思われ、検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人、家族には個人情報使用や写真の掲載の同意を書面で得ており職員にも守秘義務等の誓約を得ている。接遇関連の研修も取り入れているが言葉かけなど馴れ合いの部分もあるのは課題である。	職員の守秘義務については、入職時や研修により周知徹底されており、写真掲載等の個人情報の使用は本人や家族の承諾のもと使用している。入浴等の同性介助は、入居者の希望に対応し、方言は入居者に安心を与えるものの、馴れ合いの言葉使いは課題としている。職員の馴れ合いの言葉等職員同士が注意喚起できる環境を作られる事が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方が少ないが表出や働きかけが不足している部分もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には食事時間や日課の決まりもなく希望や意向に沿って本人のペースに合わせながら支援できていると思うが事業所側の都合で希望に沿えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や整髪など本人の意向を促しており理美容院も特に統一はしていない。髪染の支援もしている。整容において配慮が足りない時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の機能等に合わせて作業をして頂いており基本的には職員も同じ料理と一緒に食べている。好み等に合わせた別の食材や食べ易くカットして提供している。	献立は担当職員を中心に、季節や入居者の好みの料理を取り入れ作成されている。誕生日には特に希望メニューを確認し、ちらし寿司やカレーの声がよく上がるようである。食材はメインの鮮魚や精肉は配達であるが、野菜や果物などは地域商店へ出かけている。食事は嚥下力や病状に応じて食事形態や、苦手な食材へは代替えで用意し、入居者も洗い物や下膳などできることや気が向かれた時など、その時々で行ってもらえるようにしている。	洗いの音は、食事を急がせることになりかねない。全員が一緒に席に着き、見守りや会話をする等、楽しい食事支援について検討いただきたい。また、エプロンの使用については、首に負担のない使用方法を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはある程度バランスを考えている。食事・水分量は毎回チェック表にて確認。個々のタイミングも考慮しての提供時間や介助方法の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回は義歯消毒実施。口腔ケアも個々に応じた対応をしている。必要に応じて歯科受診もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは避けるよう心がけておりリハビリパンツ、パッドの種類で対応、利用者の尊厳やコスト軽減にも努めている。昼間は基本トイレでの排泄、夜間もトイレ誘導、ポータブルトイレでの排泄に努めておりベッド上での交換は少ない。	入居者の尊厳を大切に布やリハビリパンツに、パットを使い分け、日中はトイレでの排泄を誘導している。個々に応じた支援は残存機能の維持や家族の負担軽減につなげ、夜間もトイレへの誘導やポータブルトイレの使用など、個々の応じて支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、状態に応じてヨーグルトを提供。排便の頻度や性状の確認に努めて必要に応じて、かかりつけ医に相談したり指示の元で下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある方には無理強いせず声かけや時間をずらすなどしており二人介助など状態に応じた対応をしている。課題として事業所の都合に合わせている現状と工夫は不足している。	入浴は、受診状況も確認しながら午前・午後、1日を通して支援している。入浴拒否の方には、家族に声掛けの協力を依頼したり、更衣のみで対応するなど無理強いせず、週1回は入ってもらえるようにしている。家庭的な一般浴槽であり、身体状況により2名介助など職員の連携を図りながら、安全な入浴支援に努め、今年度は脱衣所にヒーターを設置し、温かく更衣ができるようになっており、誘導・支援する職員にも好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には本人のペースで過ごして頂いており生活習慣やその時々状況、状態に応じて昼寝や休息を促している。天気の良い日は定期的に布団を干したり換気もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は3重確認できるような仕組みで改善を重ねている。薬処方や変更時は記録、送り、薬情等での周知確認。症状の変化時などは、その都度、主治医へ相談して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的には本人のペースで過ごして頂きながら家事、散歩、行事、見学など支援しているが全体的に良くも悪くものんびりしており変化は少ない。また取り組みも不足している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望者が少ないのはあるが働きかけが少ない。季節の見物はあるが日常では散歩など機会は少ないように思う。家族と外出される方は時々はある。	桜やコスモス・紫陽花などの花見には、全員に声を掛け、季節の花の開花を楽しんでいる。ユニット間で外出への要望も異なり、職員は状況に応じて散歩や買い物などに出かけている。地域行事として祭りや運動会等には可能な限り出かけ、地元の人々と触れ合う機会を持っている。	管理者は入居者の外出への働きかけも少ない場面もあり、今後も本人の希望される外出について検討し支援したいとしている。保育園との交流にも努めたいとしており、外出の機会に繋がるものと期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口金としてホーム管理している分と希望に応じて本人所持している方もいる。額や購入品によっては都度家族に確認したり毎月明細を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由であり希望に応じて支援しているが機会は少ない。年賀状などが届くことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期に応じた季節感や飾り物など生活空間も考慮している。トイレ、脱衣所用の暖房機器も取り入れ温度管理にも努めた。	玄関から左右に配置されたユニットの造りは同じであるが、入居者の身体状況に応じて、リビング・食堂のテーブルやソファを配置している。また、双方のユニットをお隣さんとして、自由に行き来し、交流している。貼り絵や塗り絵の作品を掲示したり、訪玄関に置かれた雛段飾りが季節感を醸しだしている。リビングは採光も良く、新聞を開くことを日課とされる方や、背中になあたる日光に気持ちよく自分の時間を過ごされ方など、日常の光景が見られた。	敷地内の環境(雑草等)については、安全面や入居者の外出支援の点から、家族にも協力を呼びかけながら一緒に取り組まれることが望まれる。家族とともに行うことで、更に信頼関係を深める機会に繋げていただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルはその時々を利用者の状況に応じて分散配置している。ユニット間にはソファを設置しており自由に行き来もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込むことの説明や基本的に持ち込み物の制限もなく搬送の協力もしている。また個々の状況、状態に応じた環境整備にも努めている。	入居申し込み相談時に居室内も見てもらいながら持ち込みを検討してもらっており、テレビやタンス、テーブル・椅子、仏壇を持ち込まれている方もおられる。運搬面からプラスチックケースの持ち込みも多くなっている現状もあるが、衣替えの時期には、家族にも協力を促し、入居後も一緒に安心できる居室作りに努めている。	職員は掃除や換気をはじめ、天候の良い日は努めて布団干しを行っている。これらの取り組みについて、家族へ伝えることで、安心にも繋がるものと思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全体バリアフリーでありトイレや浴室には認識できるような明示をしている。		